

高鷲町内集落地誌（2）

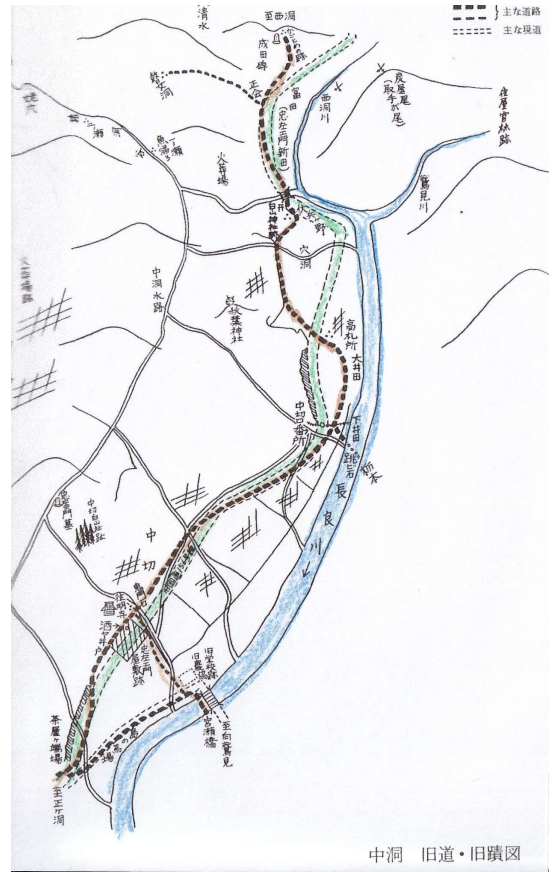
「高鷲村史続編」より編集して再掲載した。

中洞

中洞は、明治10年に穴洞村と中切村が合併して出来た村名で、元の穴洞、中切の地名の由来は泰澄大師伝記や鷲見大鑑に出てくるが定かではない。

中洞の先駆者としては、文化年中に中切を舞台に活躍した鷲見忠左衛門がいる。正会の荒れ地を開墾して2町歩余りの水田を造成するなど、この地の農民と共に歩んだ。中洞の地形は、山麓が緩く傾斜して広く長良川川敷まで迫っており、東南に面しているため日照時間も長く、水利は猪ノ洞谷を山手に控えて生活用水・農業用水共に容易に導くことができた。

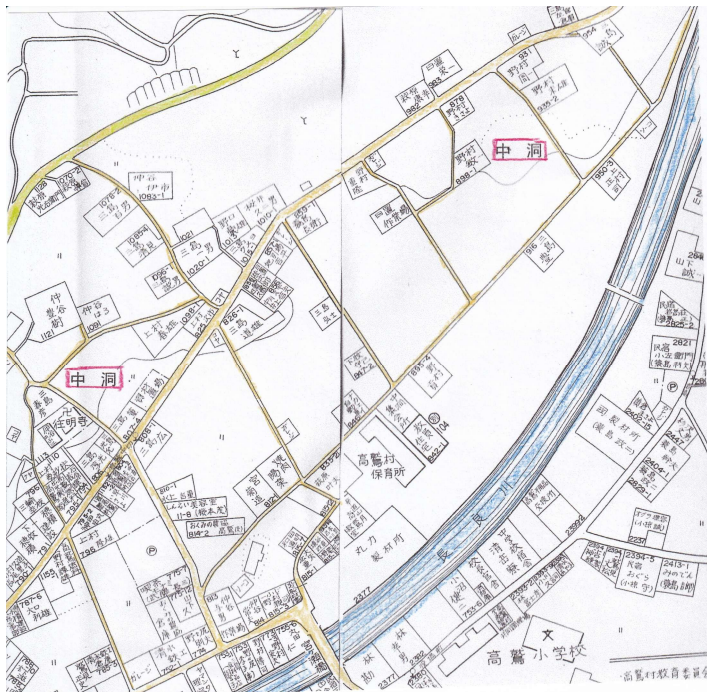
区民たちはこれらの農業基盤を高度に活用するなど稲作農業に取り組む姿勢が熱心で、昔から良質な米が生産された。また、昔から牛馬の飼育頭数は鷲見郷内でも群を抜いていた。



中洞 旧道・旧蹟図

中洞地区旧道・旧蹟地図

一方、猪ノ洞谷の水源をなす大日山麓は、山林資源の宝庫であり、この洞で生産される下駄材・板材・木炭など生産品の搬出はすべて人力で国道沿いまで運ばれた。



平成4年当時の中洞



現在の中洞商店街(令和7・6・9撮影)

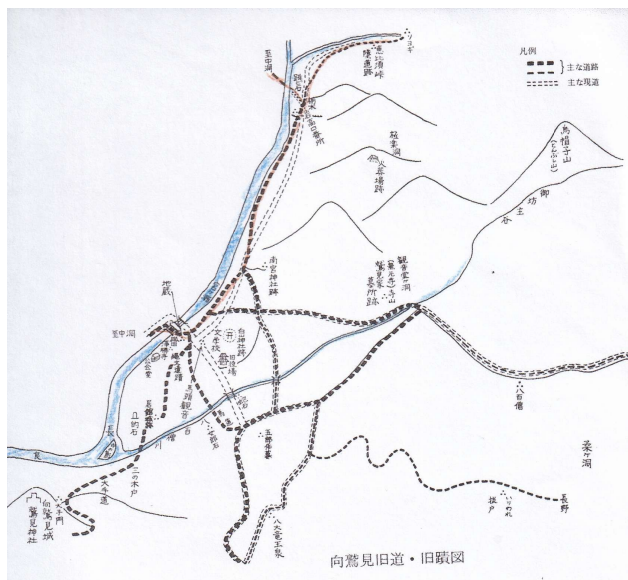
向鷺見

向鷺見の地名は、鷺見大鑑には「迎鷺見」からきたといわれているがもう一説には「鷺退治」から名前が付いたといわれているが定かではない。

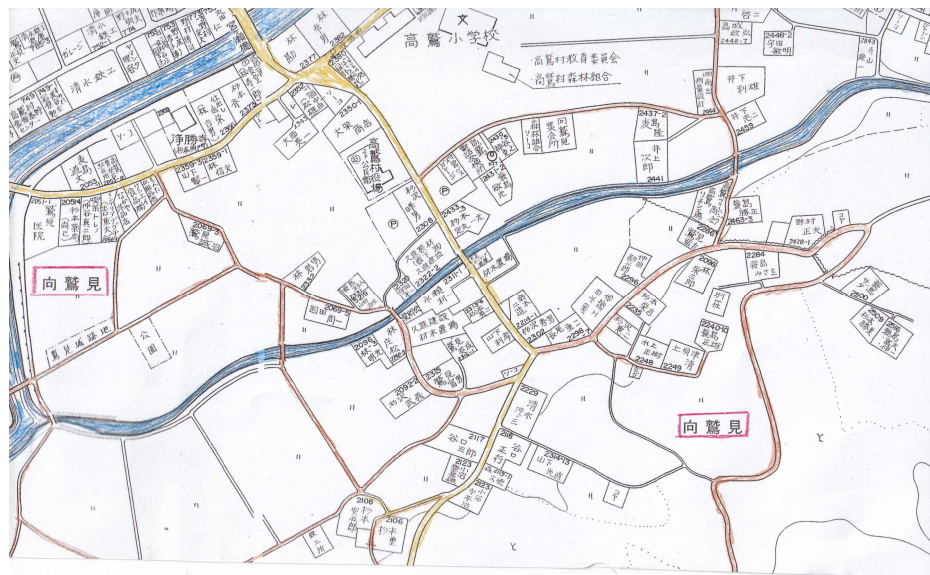
昔鷺見氏の居城があったことから鷺見郷八ヶ村の政治、経済の中心地でもあり、戸数・人口とも最も多かった。白川街道は宮ヶ瀬橋から向鷺見白山神社を右手に見て、岩高で川手に沿いながらワセ洞付近で山手にかかり、恵比寿峠を指し、小二声から鷺見に向かう。

集落は長良川や八百僧谷川の水利を受ける岩高・寺山・向谷・中山・洞あたりに偏在していた。特に岩高は街道に直面し、宿場的賑わいを見せていた。

特に近代に入ってから、役場や・学校が



向鷺見地区旧道・旧蹟地図



平成4年当時の正ヶ洞地区

作られ、高鷺町の中心地域となった。

また、集落の東方の長野、桑ヶ洞は広大な広葉樹林が展開しており、耕地だけでの収量では満足に食生活を維持できないので、住民は焼畑農業で生計をまかなっていた。



現在の小学校校庭にあった旧役場



現在の小学校横の県道高鷺総則線(令和7・6・9撮影)